2027年３月期 中間決算説明資料

― Agenda ―

説明内容	説明者	予定時間
・2027年3月期 中間決算報告 ・大同工業との 事業シナジー創出に向けた取り組み	代表取締役社長 木村　隆利	35分
・質疑応答	代表取締役社長 各担当役員	25分

Innovation in Motion
TSUBAKI

1 2027年3月期 第２四半期実績　ハイライト

前年同期比で28.4%の増収、営業利益は46.3%の増益。
予想比で2.4%の増収、同13.5%の増益。

（単位：百万円）

	2025年度	2026年度					通期予想
	2Q実績	2Q予想	**2Q実績**	前年同期比	2Q予想比	通期予想進捗率	**(5/13公表)**
売上高	135,634	170,000	**174,131**	+ 38,496 (+ 28.4%)	+ 4,131 (+ 2.4%)	49.8%	**350,000**
営業利益	8,302	10,700	**12,145**	+ 3,842 (+ 46.3%)	+ 1,445 (+ 13.5%)	47.6%	**25,500**
営業利益率	6.1%	6.3%	**7.0%**	+ 0.9pt	+ 0.7pt	―	**7.3%**
経常利益	10,116	12,000	**14,079**	+ 3,963 (+ 39.2%)	+ 2,079 (+ 17.3%)	54.2%	**26,000**
親会社株主に帰属する中間純利益	9,921	10,000	**10,215**	+ 293 (+ 3.0%)	+ 215 (+ 2.2%)	46.4%	**22,000**
換算レート（USD）	146.02	148.00	**159.49**				**148.00**
（EUR）	168.05	180.00	**184.43**				**180.00**
（RMB）	20.44	21.00	**23.07**				**21.00**

2 2027年3月期 第２四半期実績　セグメント別業績

◆ 前年同期比：大同工業株式会社を連結子会社化したこと等により、全ての事業で増収、
パワートランスミッション事業、モビリティ事業で増益。

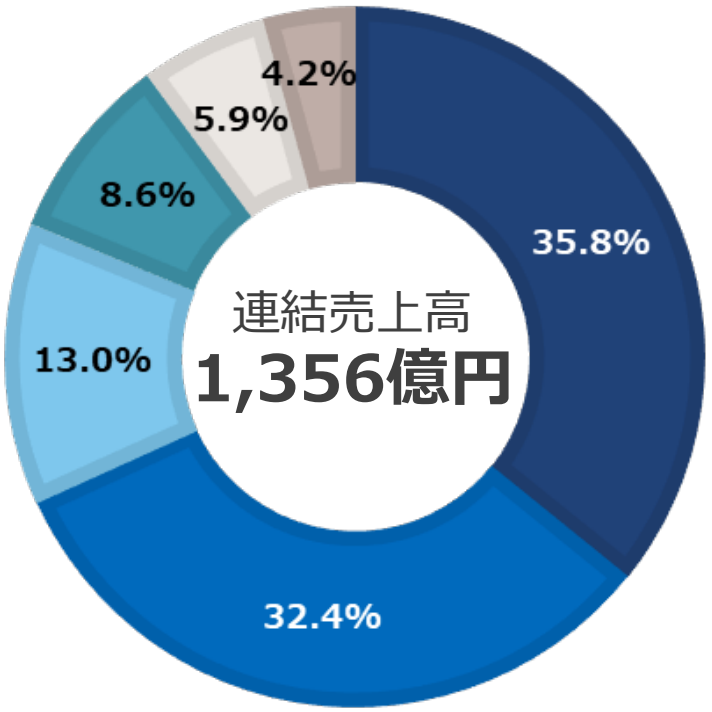
（単位：百万円）

	売上高 ※1					営業利益				
	2025年度 2Q実績	2026年度 2Q予想	2026年度 2Q実績	増減率 前年同期比	増減率 予想比	2025年度 2Q実績	2026年度 2Q予想	2026年度 2Q実績	増減率 前年同期比	増減率 予想比
パワートランスミッション	60,871	**69,000**	**70,391**	＋ 15.6%	＋ 2.0%	7,345	**7,600**	**7,984**	＋ 8.7%	＋ 5.1%
モビリティ	45,333	**63,000**	**66,610**	＋ 46.9%	＋ 5.7%	4,472	**5,800**	**6,278**	＋ 40.4%	＋ 8.2%
マテハン	29,610	**34,000**	**32,095**	＋ 8.4%	▲ 5.6%	▲ 494	**0**	**▲ 140**	—	—
その他 ※2	1,627	**6,500**	**7,117**	＋ 337.4%	＋ 9.5%	▲ 484	**▲ 1,300**	**▲ 1,067**	—	—
調整額	▲ 1,807	**▲ 2,500**	**▲ 2,083**	—	—	▲ 2,536	**▲ 1,400**	**▲ 909**	—	—
合計	135,634	**170,000**	**174,131**	＋ 28.4%	＋ 2.4%	8,302	**10,700**	**12,145**	＋ 46.3%	＋ 13.5%

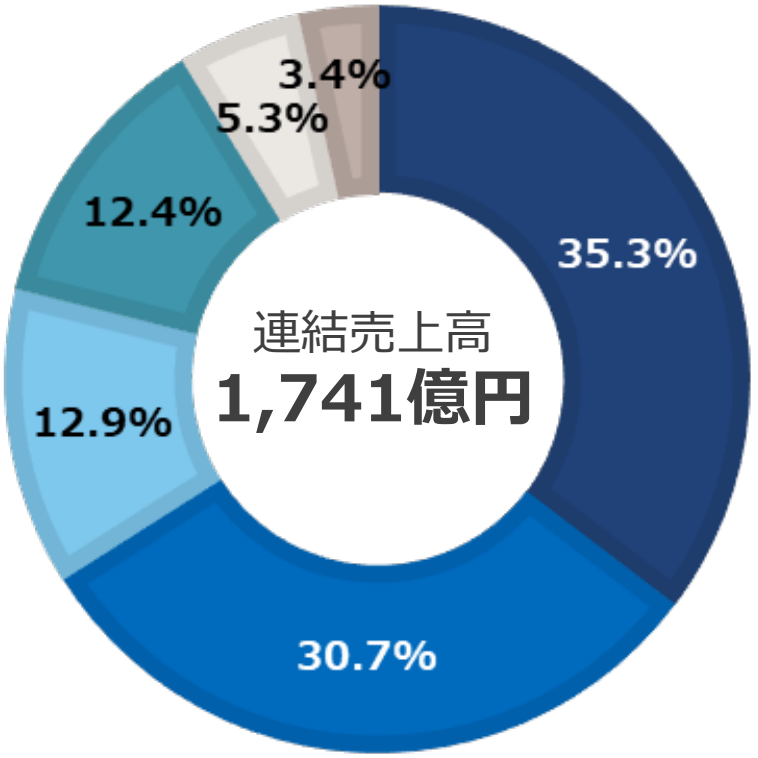
※1 売上高には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。
※2 「その他」は報告セグメントではありません。

3 2027年3月期 第２四半期実績　地域別売上高

2026年３月期第２四半期
海外売上高比率：64.2%



2027年３月期第２四半期
海外売上高比率：64.7%



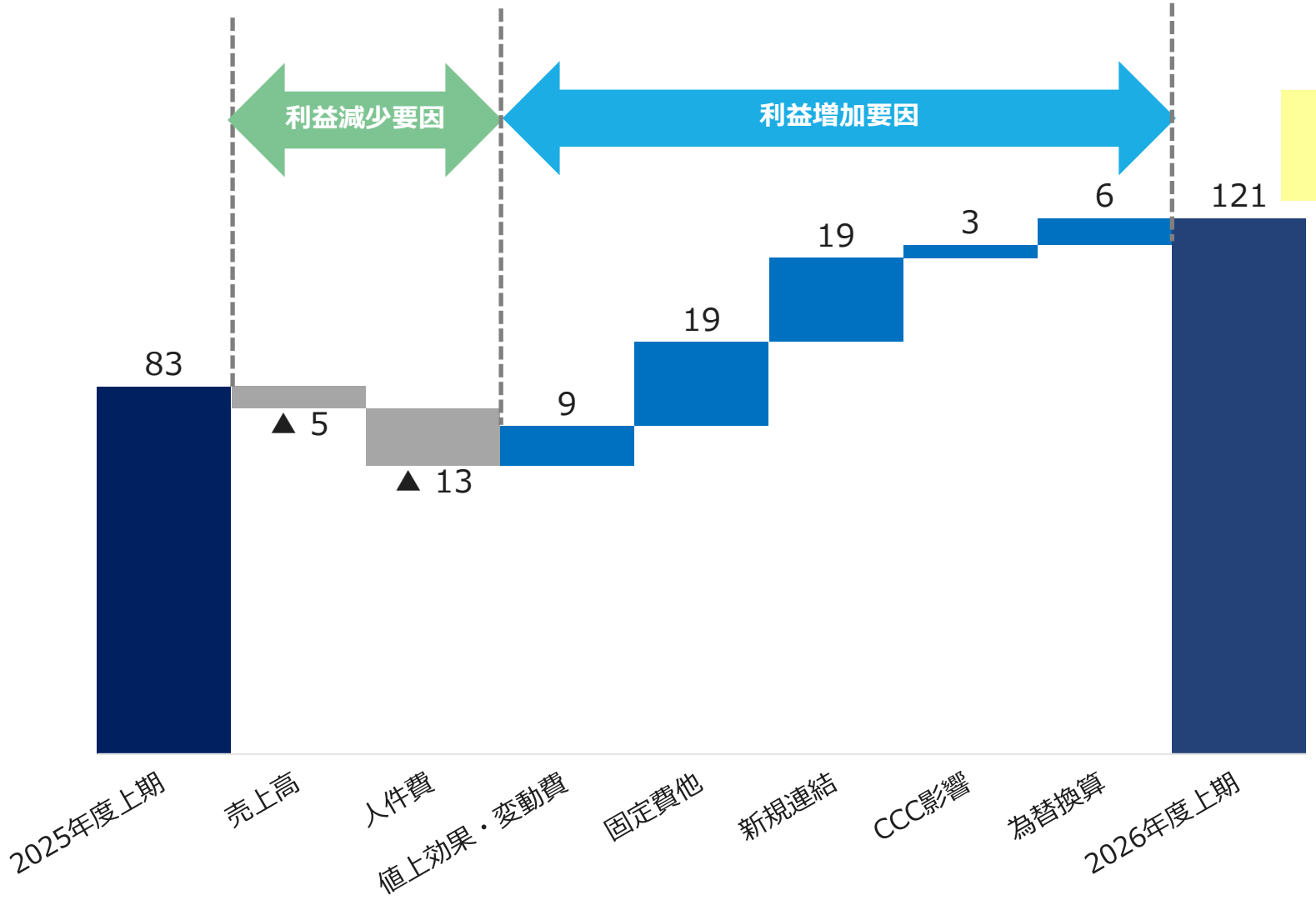
■日本 ■米州 ■欧州 ■環インド洋 ■中国 ■韓国・台湾

4 2027年3月期 第２四半期実績 連結営業利益増減要因分析

2025年度上期実績 vs 2026年度上期実績

（単位：億円）

営業利益増加
38億円

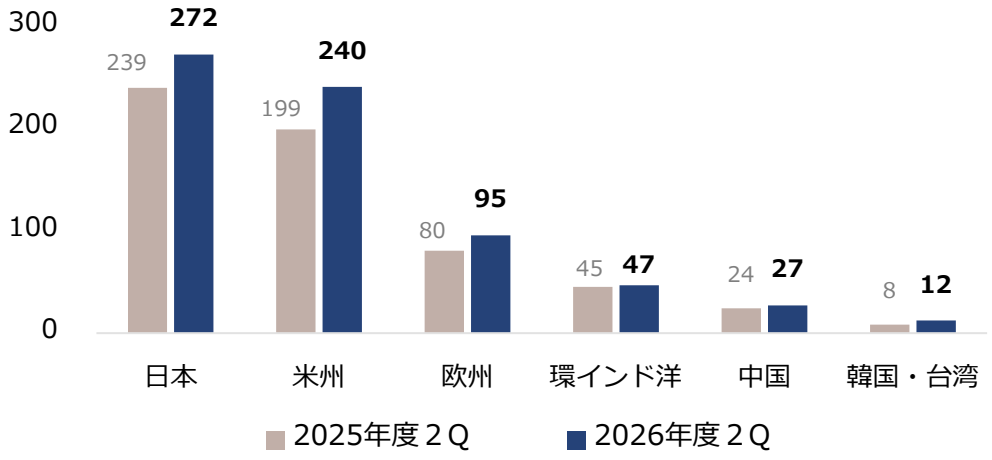


株式会社 椿本チエイン

5 セグメント別概況 ― パワートランスミッション

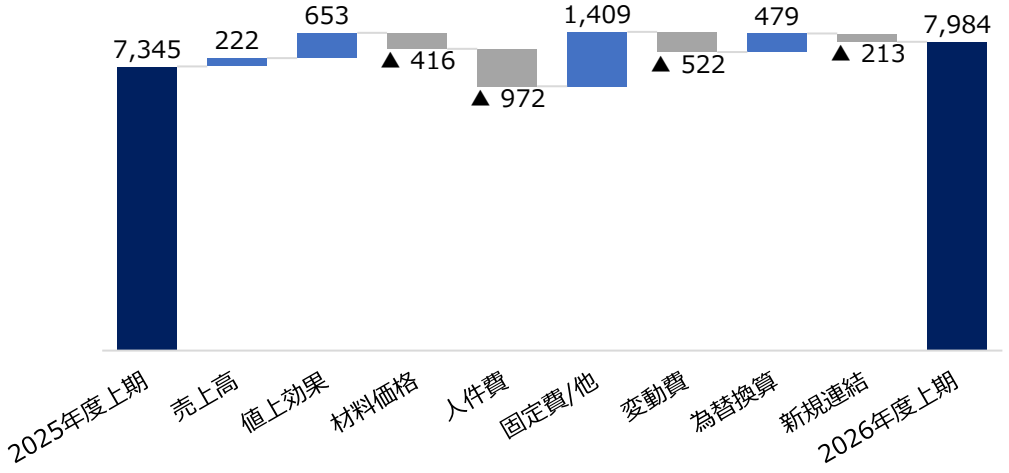
地域別売上高推移

（単位：億円）



営業利益 増減要因

（単位：百万円）



前年同期比

売上高
+9,519百万円
(+15.6%)

日本および米州の販売堅調、大同工業の連結子会社化により増収。

セグメント利益
+639百万円
(+8.7%)

増収効果に加え、半導体・工作機械向け需要の回復により増益。

予想比

売上高
1,391百万円
(+2.0%)

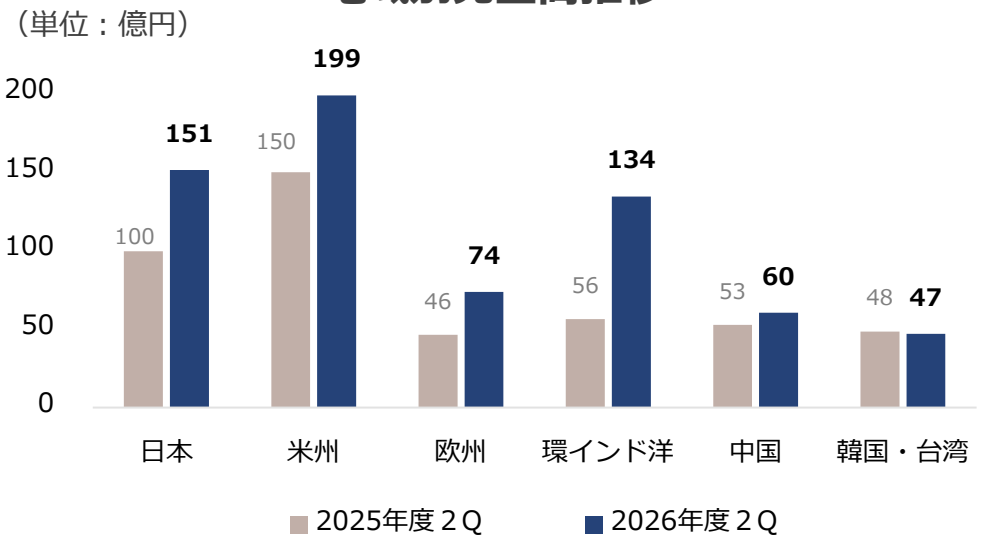
為替相場が期初想定より円安で推移したことなどにより増収。

セグメント利益
+384百万円
(+5.1%)

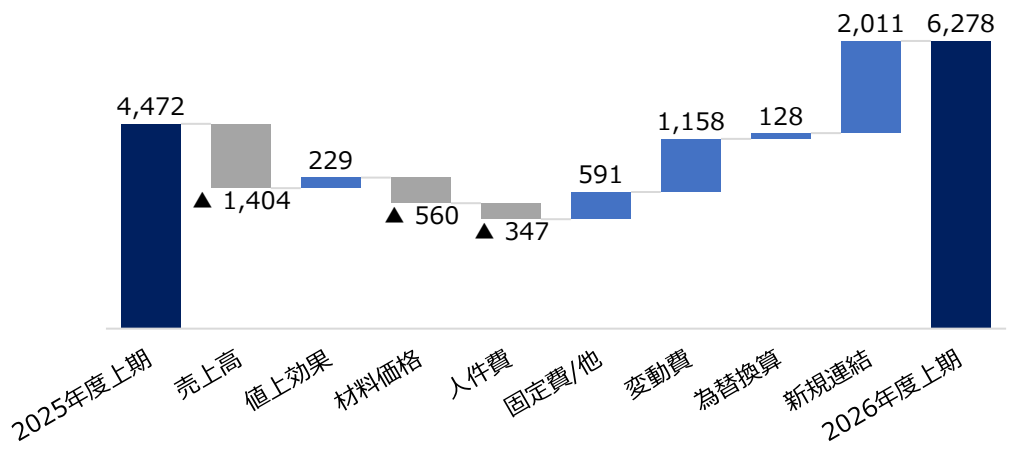
増収効果、生産性改善などにより増益。

5 セグメント別概況 ― モビリティ

地域別売上高推移



営業利益 増減要因



前年同期比

売上高
+21,277百万円
(+46.9%)

二輪向けビジネスの好調、四輪向けも日本・北米堅調により大幅増収。

セグメント利益
+1,805百万円
(+40.4%)

二輪向けビジネスの収益性改善が寄与し大幅増益。

予想比

売上高
+3,610百万円
(+5.7%)

二輪向けビジネスが想定を上回り増収。

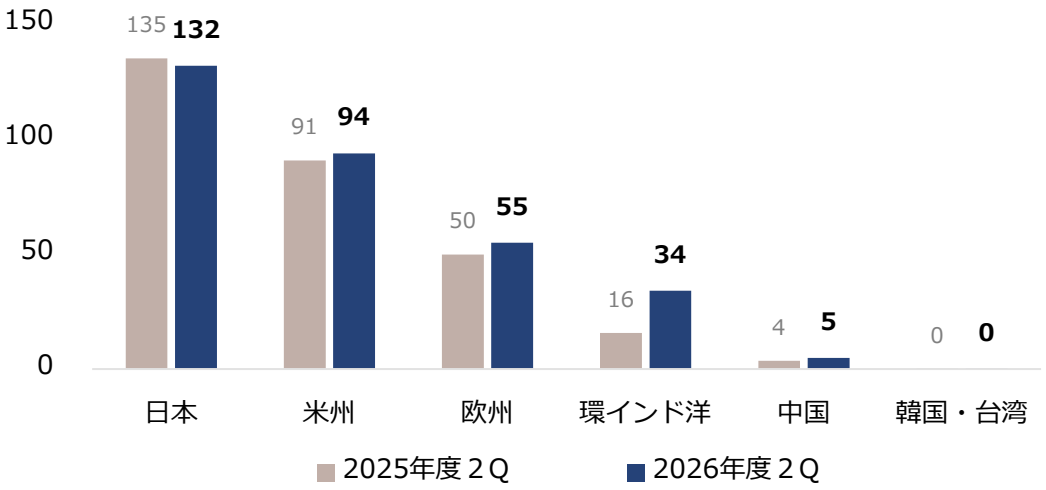
セグメント利益
+478百万円
(+8.2%)

増収効果により増益。

5 セグメント別概況 ― マテハン

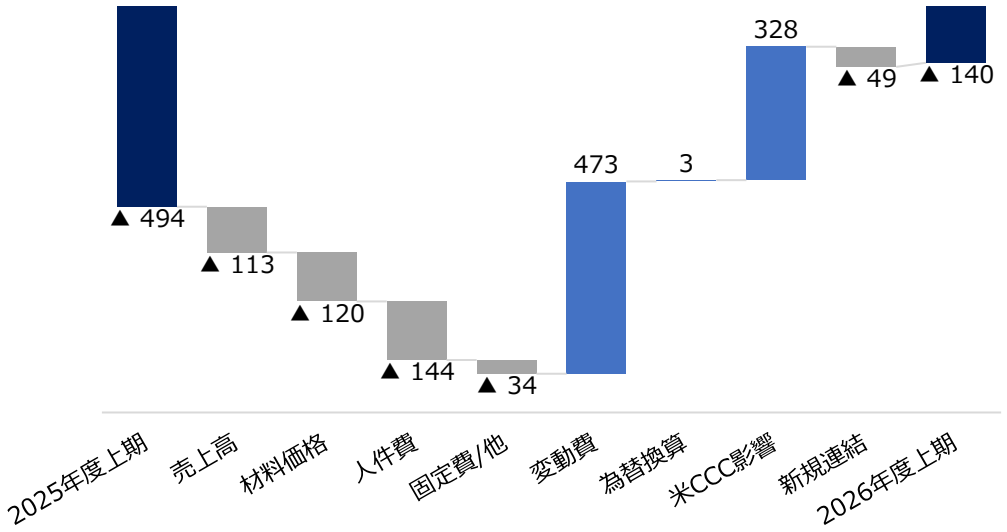
地域別売上高推移

（単位：億円）



営業利益 増減要因

（単位：百万円）



前年同期比

売上高
+2,485百万円
(+8.4%)

大同工業の連結化や為替影響などにより増収。

セグメント利益
+354百万円
(－)

北米マテハン事業の収益性改善により赤字幅縮小。

予想比

売上高
▲1,904百万円
(▲5.6%)

日本で一部案件の売上計上が下期へずれ込み、計画未達。

セグメント利益
▲140百万円
(－)

第2四半期は収益性が改善したものの、第1四半期の落ち込みを補えず計画未達。

2027年３月期 連結業績予想

6 2027年3月期 通期業績予想

◆前回予想（5月13日公表）から上方修正。
前期比で売上高 +20.0%、営業利益 +23.3% の増収・増益を想定。

（単位：百万円）

	2025年度 実績	2026年度 上期実績	下期予想	通期予想	前期比	前回予想	前回予想比
売上高	295,878	174,131	180,868	**355,000**	+ 20.0%	350,000	+ 1.4%
営業利益	21,578	12,145	14,454	**26,600**	+ 23.3%	25,500	+ 4.3%
営業利益率	7.3%	7.0%	8.0%	**7.5%**	―	―	―
経常利益	24,804	14,079	13,920	**28,000**	+ 12.9%	26,000	+ 7.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	29,708	10,215	11,784	**22,000**	▲25.9%	22,000	―
換算レート（USD）	150.67	159.49		**154.75**		148.00	
（EUR）	174.64	184.43		**179.72**		180.00	
（RMB）	20.81	23.07		**22.95**		21.00	

7 2027年3月期 セグメント別業績予想

◆すべての事業で増収、増益を想定。

（単位：百万円）

	売上高							営業利益						
	2025年度	2026年度						2025年度	2026年度					
	通期実績	上期実績	下期予想	**通期予想**	期初通期予想	前年同期比	期初予想比	通期実績	上期実績	下期予想	**通期予想**	期初通期予想	前年同期比	期初予想比
パワートランスミッション ※2	126,336	70,391	71,608	**142,000**	141,500	+ 12.4%	+ 0.4%	16,349	7,984	9,315	**17,300**	17,300	+ 5.8%	—
モビリティ	97,403	66,610	65,389	**132,000**	128,000	+ 35.5%	+ 3.1%	10,036	6,278	6,521	**12,800**	11,800	+ 27.5%	+ 8.5%
マテハン	70,770	32,095	39,904	**72,000**	72,000	+ 1.7%	—	963	▲ 140	1,140	**1,000**	1,500	+ 3.8%	▲ 33.3%
その他 ※3	5,041	7,117	5,882	**13,000**	13,000	+ 157.9%	—	▲ 1,180	▲ 1,067	▲ 1,432	**▲ 2,500**	▲ 2,400	—	—
調整額	▲ 3,672	▲ 2,083	▲ 1,916	**▲ 4,000**	▲ 4,500	—	—	▲ 4,589	▲ 909	▲ 1,090	**▲ 2,000**	▲ 2,700	—	—
合計	295,878	174,131	180,868	**355,000**	350,000	+ 20.0%	+ 1.4%	21,578	12,145	14,454	**26,600**	25,500	+ 23.3%	+ 4.3%

※1 売上高には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。
※2 2025年度のパワートランスミッション事業の売上高および営業利益については、現在算定中のため、本表ではチェーン事業とモーションコントロール事業を単純合算し表示しております。
※3「その他」は報告セグメントではありません。

8 業績予想セグメント別概況 ー パワートランスミッション

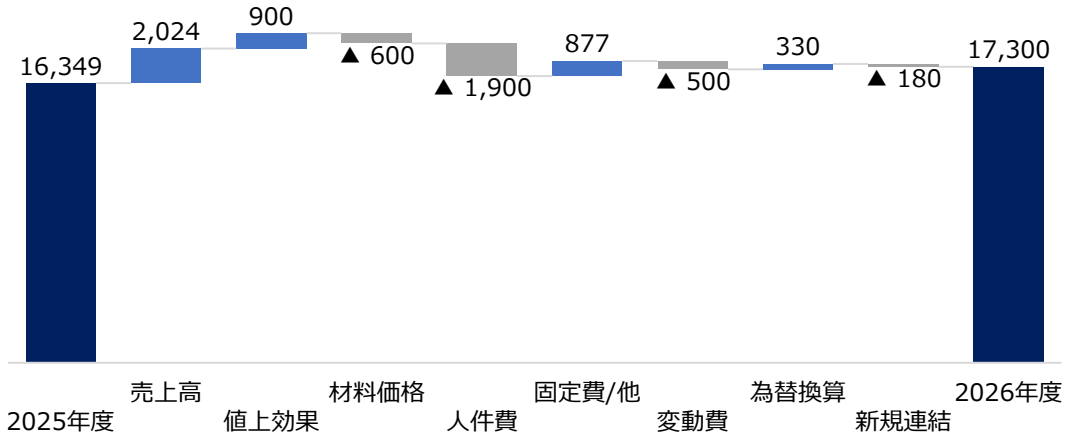
※1 売上高には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

（単位：百万円）

	売上高							営業利益						
	2025年度	2026年度						2025年度	2026年度					
	通期実績	上期実績	下期予想	**通期予想**	期初通期予想	前年同期比	期初予想比	通期実績	上期実績	下期予想	**通期予想**	期初通期予想	前年同期比	期初予想比
パワートランスミッション ※2	126,336	70,391	71,608	**142,000**	141,500	+ 12.4%	+ 0.4%	16,349	7,984	9,315	**17,300**	17,300	+ 5.8%	—

（単位：百万円）

営業利益 増減要因



✓ 売上高
欧州・中国の需要回復は鈍いものの、日本・米州での堅調な推移に加え、大同工業の通年寄与や為替影響により増収。

✓ 営業利益
中東情勢の影響によるコスト上昇はあるものの、増収効果等により増益。

8 業績予想セグメント別概況 ー モビリティ

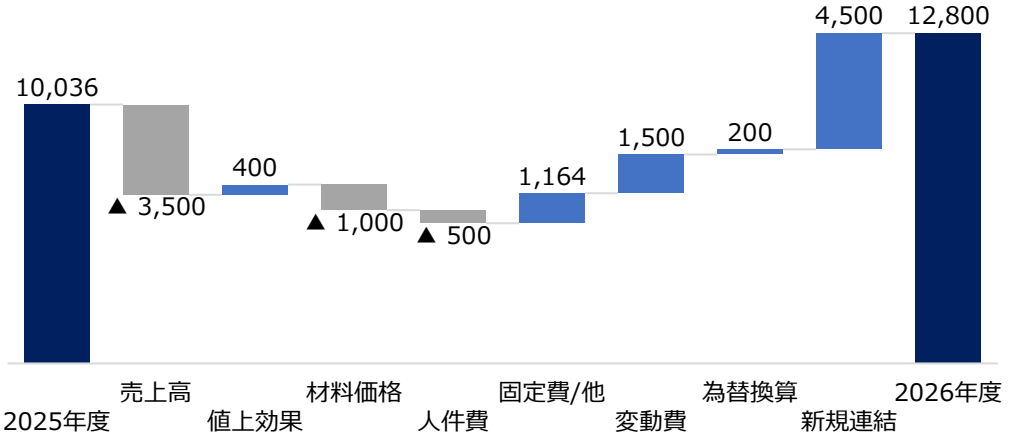
※1 売上高には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

（単位：百万円）

	売上高							営業利益						
	2025年度	2026年度						2025年度	2026年度					
	通期実績	上期実績	下期予想	**通期予想**	期初通期予想	前年同期比	期初予想比	通期実績	上期実績	下期予想	**通期予想**	期初通期予想	前年同期比	期初予想比
モビリティ	97,403	66,610	65,389	**132,000**	128,000	+ 35.5%	+ 3.1%	10,036	6,278	6,521	**12,800**	11,800	+ 27.5%	+ 8.5%

（単位：百万円）

営業利益 増減要因



✓売上高
四輪向けの販売減少はあるものの、二輪向けの通年寄与や為替影響により大幅増収。

✓営業利益
二輪向けの好調、収益性改善により大幅増益。

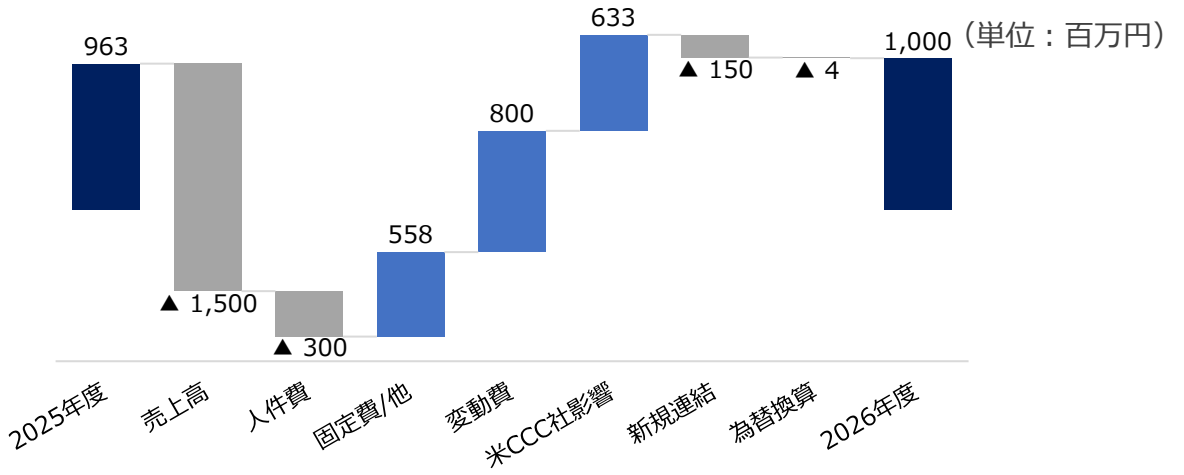
8 業績予想セグメント別概況 ー マテハン

※1 売上高には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

（単位：百万円）

	売上高							営業利益						
	2025年度	2026年度						2025年度	2026年度					
	通期実績	上期実績	下期予想	**通期予想**	期初通期予想	前年同期比	期初予想比	通期実績	上期実績	下期予想	**通期予想**	期初通期予想	前年同期比	期初予想比
マテハン	70,770	32,095	39,904	**72,000**	72,000	+ 1.7%	—	963	▲ 140	1,140	**1,000**	1,500	+ 3.8%	▲ 33.3%

営業利益 増減要因

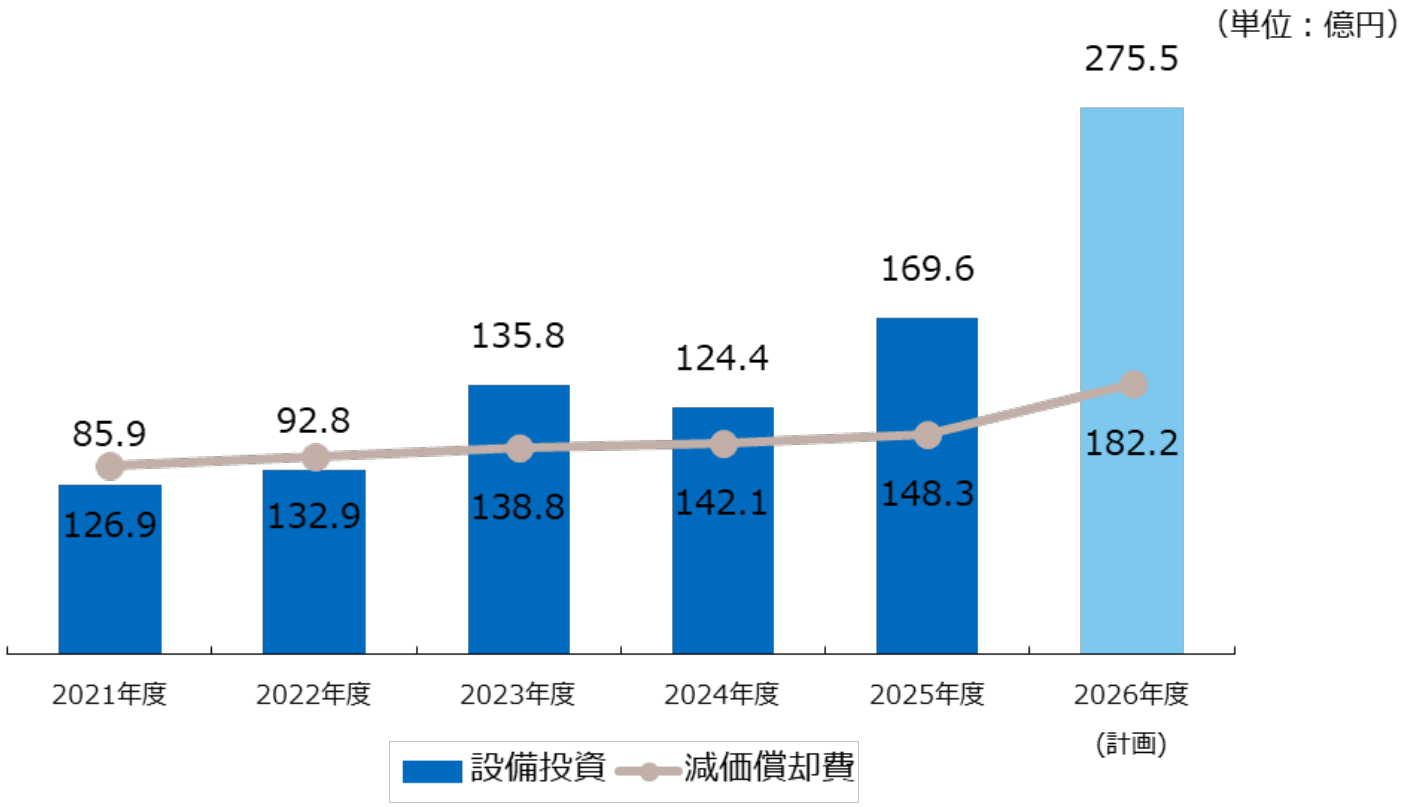


✓売上高
前年の国内大口案件の反動減があるものの、大同工業の通年寄与や為替影響により増収。

✓営業利益
国内の減収影響があるものの、北米での収益性改善などにより増益。

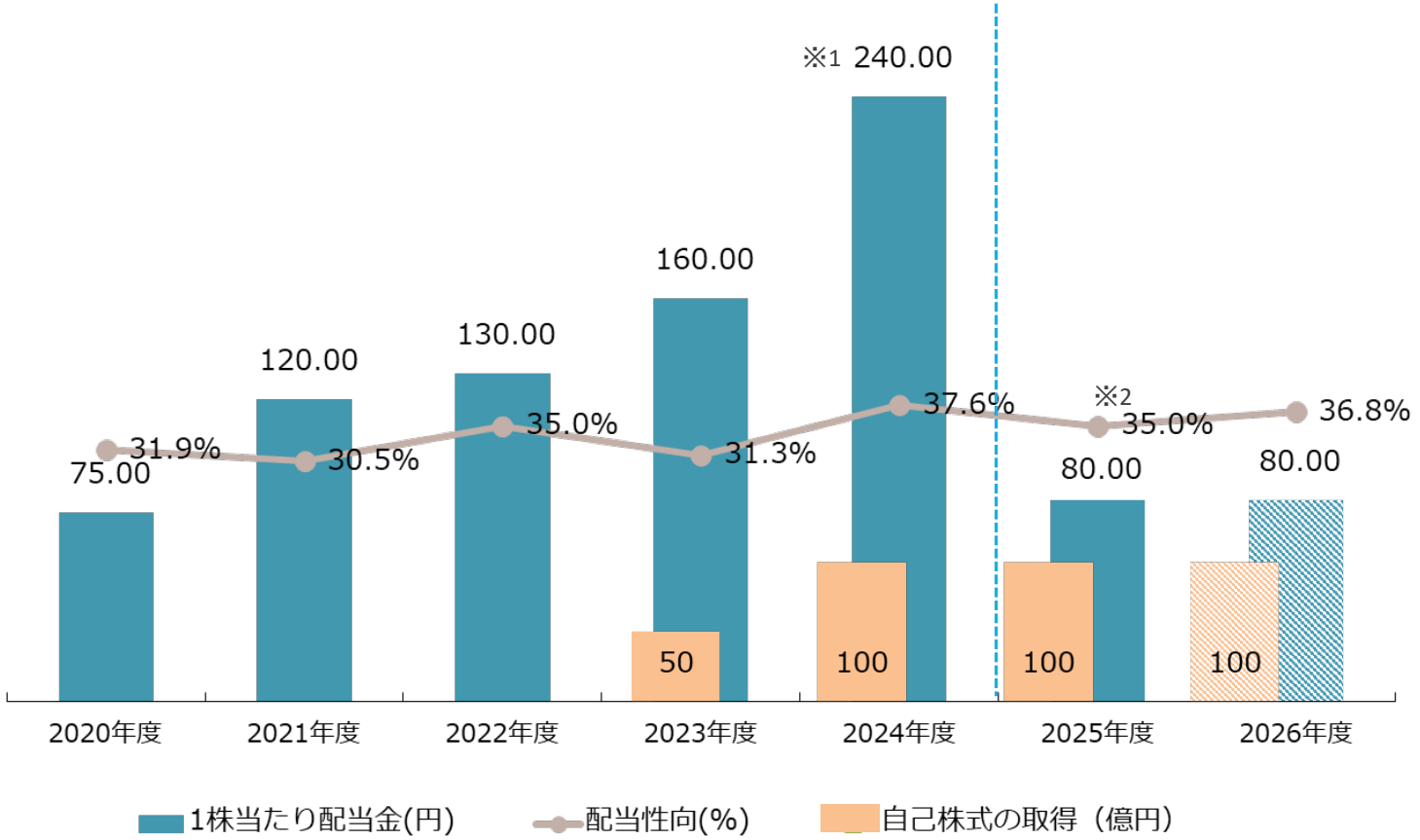
9 設備投資計画

✓ 成長力強化に向けた「資本投入」
・生産能力増強に向けた工場棟の増築投資
・生産体制の自動化および効率化投資



10 株主還元

✓ 株主還元　年間80円の配当、100億円の自社株買いを実施中



※1 2024年10月1日を効力発生日として普通株式１株につき３株の割合で株式分割を実施。
　　2024年度の配当金は当該株式分割を考慮しない金額を記載。株式分割を考慮した場合の配当金は、中間99円、期末47円の年間146円。
※2 現金収入を伴わない負ののれん発生益等を計算から除外。

大同工業との
事業シナジー創出に向けた取り組み

～PMI進捗状況について～

1 大同工業子会社化の目的と目指すべき姿

両社の強みと事業基盤を相互に活用し、 売上拡大と収益性向上へ

大同工業子会社化の目的

01	02	03
事業・商品基盤の強化	**グローバル展開の加速**	**収益性・資本効率向上**
両社の商品・技術を組み合わせ事業領域を拡大	インド・ブラジル・アジアなど大同工業の事業基盤を活用	両社の経営資源の有効活用

商品・顧客・地域基盤・モノづくりの相互活用

事業別のPMI施策を通じて、中計2030の売上・利益目標の達成へ

モビリティ	パワートランスミッション	マテハン
生産能力の向上による「強み」の強化	商品・製造・商流を精査成長シナジーの創出	商品基盤拡大と営業体制統合による競争力拡大

大同工業との単純合算ではなく、課題解決と成長施策を通じて企業価値向上の実現を目指す

2 大同工業の事業概要

二輪用チェーンではOEM装着率№.１、一般産業用チェーンでは当社に次いで国内2位





二輪用チェーン



リム・ホイール

モビリティ



四輪用チェーン





一般産業用チェーン

**パワートランス
ミッション**



福祉機器



コンベヤシステム

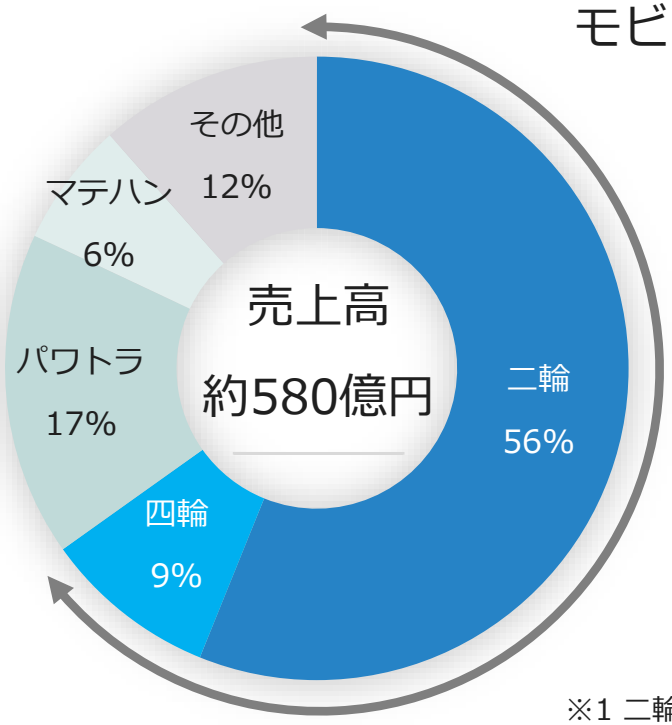
マテハン・他

2 大同工業の事業概要

二輪を中心とするモビリティ事業が売上高の65%を占め、海外売上比率は約6割。
グローバルな事業基盤が強み。

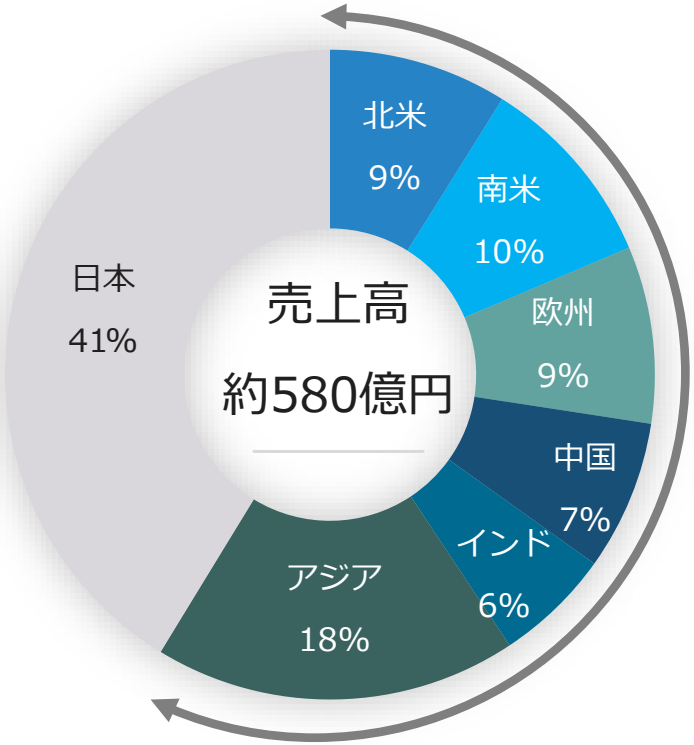
※2026年3月期実績（社内管理ベース）に基づく

事業別



※1 二輪セグメントに
農機用ホイールを含む

地域別



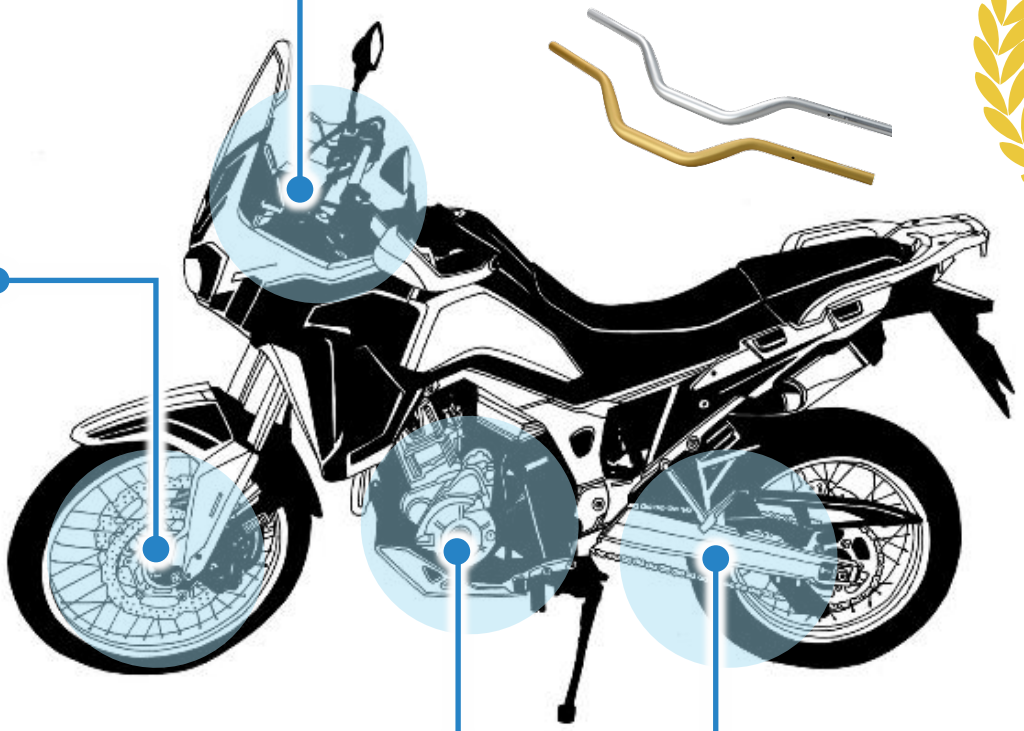
3 大同工業：モビリティ事業の概要

二輪用商品は、祖業であるリム事業からスタート。
現在はドライブチェーンを中心にアルミ製品事業も拡大。



リム・ホイール

ハンドルパイプ



D.I.D
二輪車用ドライブチェーン
OEM装着率 シェア
No.1



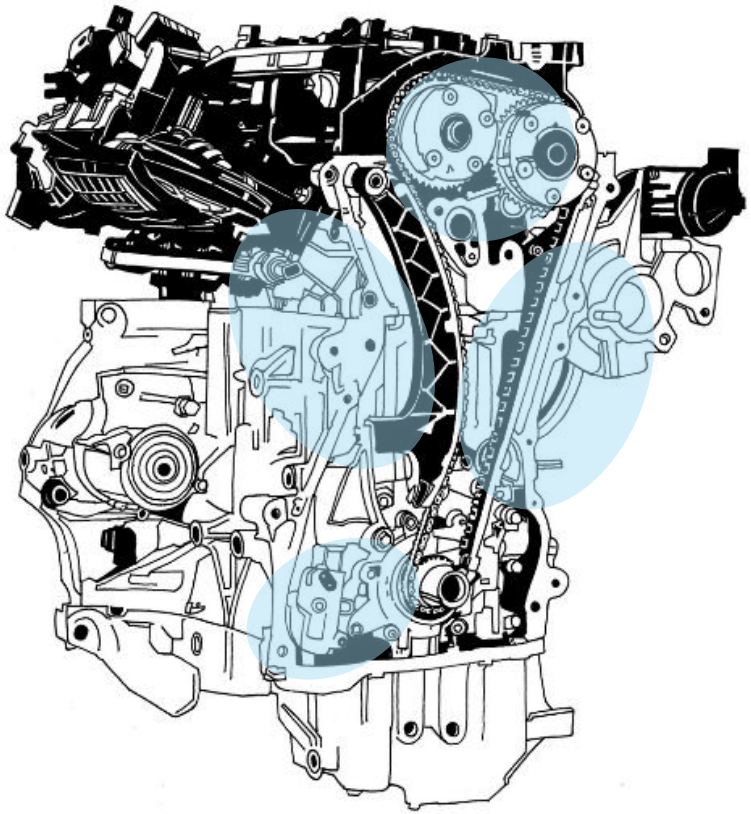
エンジンチェーン



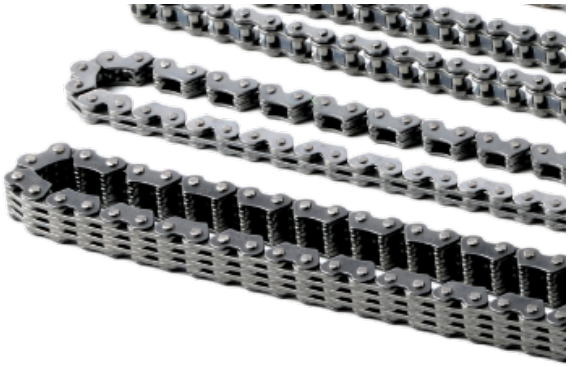
ドライブチェーン

3 大同工業：モビリティ事業の概要

エンジン内部品を中心に事業を展開



エンジン用
タイミングチェーン



スプロケット



周辺部品





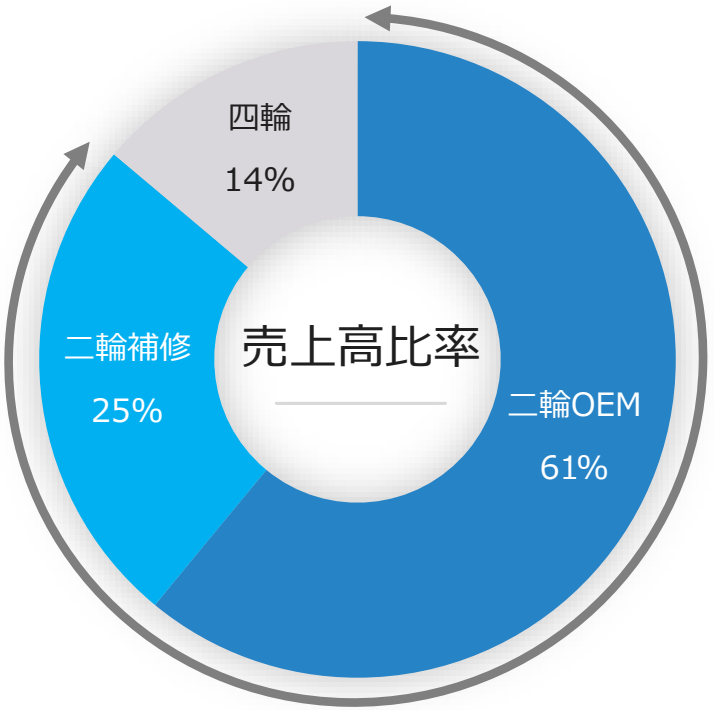


3 大同工業：モビリティ事業の概要

モビリティ事業の86%が二輪向けであり、二輪需要の高い新興国向け
（南米・中国・インド・アジア）売上が53%を占める。

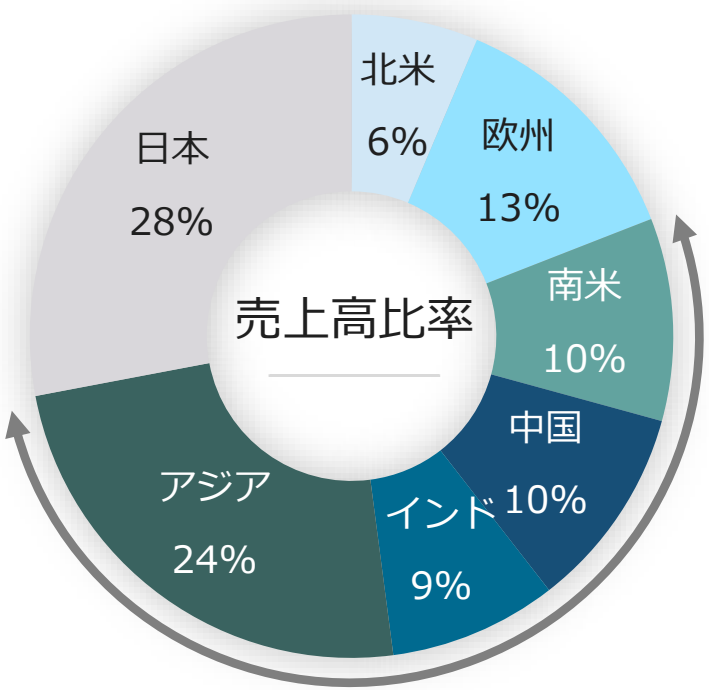
※2026年3月期実績（社内管理ベース）に基づく

商品群別



二輪向け
86%

地域別



新興国向け
53%

4 モビリティ事業｜今後の戦略・目指す方向性

二輪：既存事業の拡大とともに、部品販売からシステム提案へ事業領域を拡大
四輪：当社主導で大同工業の生産・顧客基盤を活用し、グローバル展開を加速

二輪

大同工業の既存事業を伸ばす

- ✓ 重点市場・顧客・商品を明確化し、OEM/補修市場 双方の成長余地を積み上げる
- ✓ 当社の強みであるシステム設計・提案力を生かし、システム納品を拡大する

四輪

大同工業の拠点を活用し
当社四輪ビジネスの拡大と生産性向上を図る

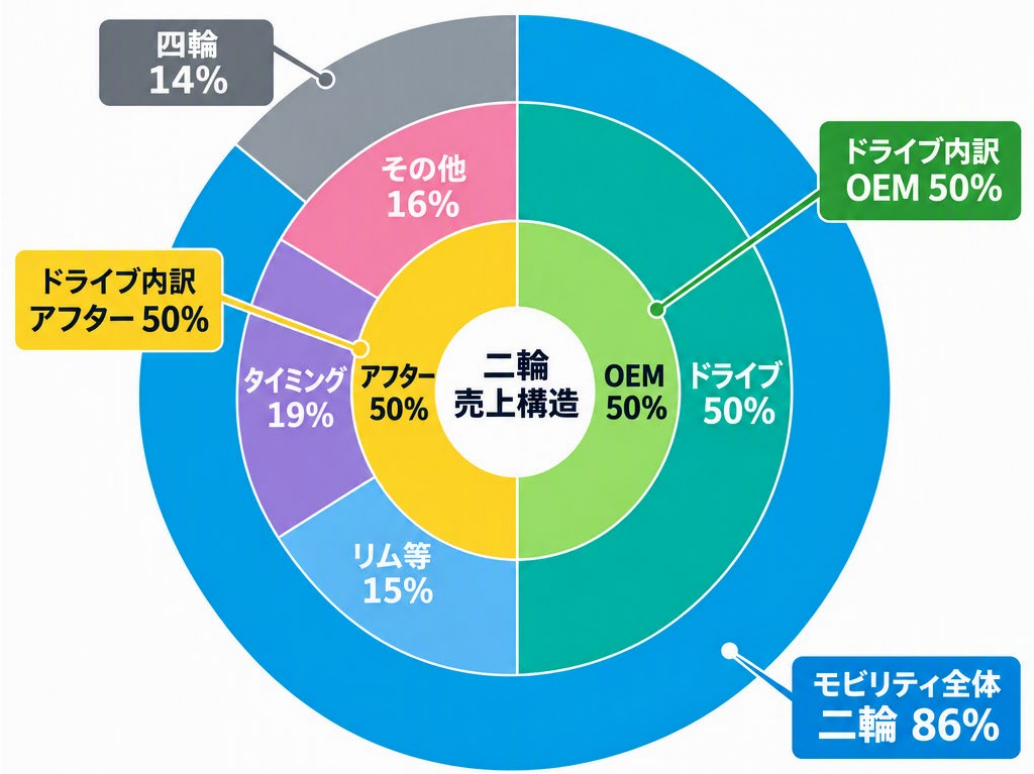
- ✓ インド・中南米の拠点を足掛かりに当社既存顧客への追加提案と新規案件の獲得を実現する

事業領域の拡大 × グローバル展開の加速 × 収益力の向上
中計2030のモビリティ事業目標達成へ

5 モビリティ事業｜大同工業の事業構造と利益推移

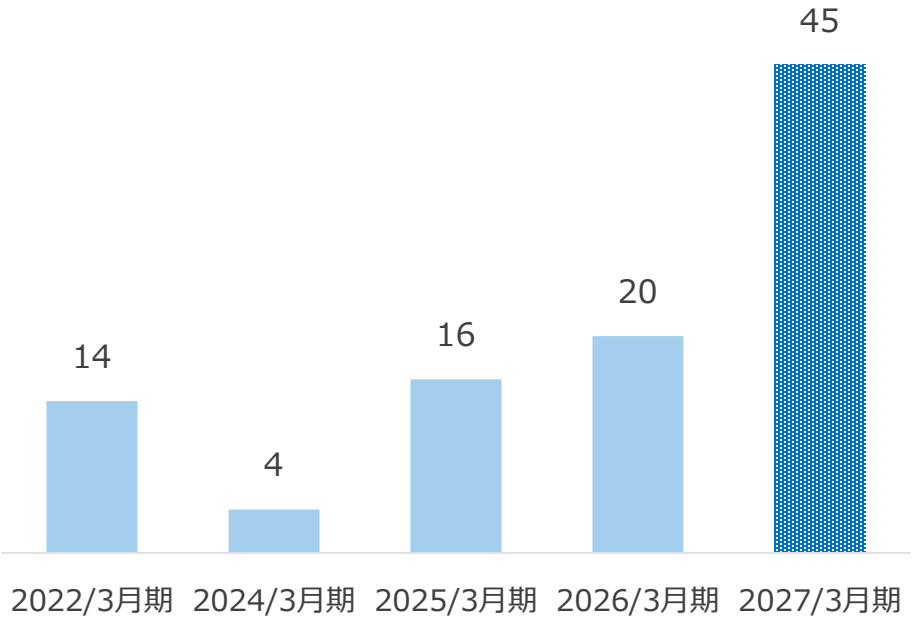
二輪向けが売上の約8割を占め、補修市場向けを中心に収益性が改善。
旺盛な補修向け需要を確実に取り込むことが、さらなる利益成長の鍵。

大同工業 モビリティ事業
売上高構成比



営業利益推移
（※社内管理ベース）

（単位：億円）



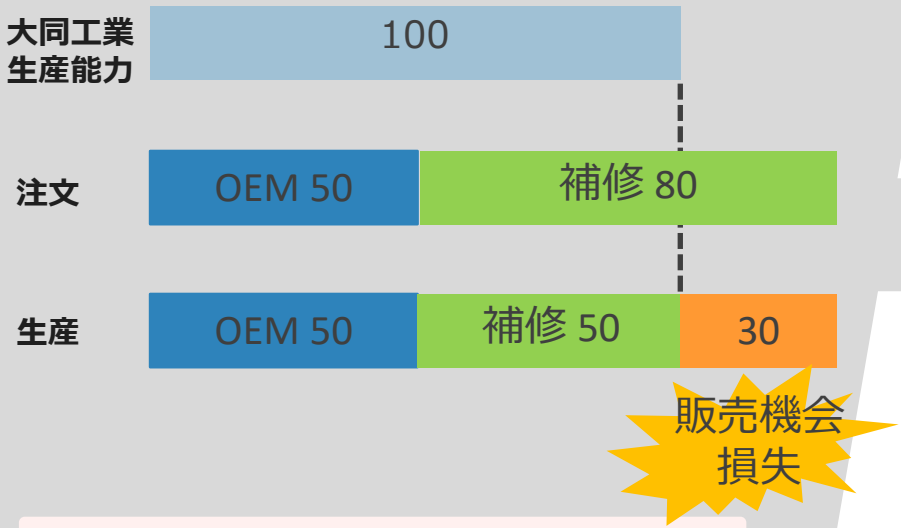
大同工業モビリティ全体は黒字基調で推移。
二輪での販売構成・供給制約により利益水準が変動

6 モビリティ事業｜二輪事業の製造シナジー

収益性の高い補修市場の需要拡大に供給能力が追いつかず、販売機会損失が発生。
当社の熱処理能力を活用し、供給能力の拡大と収益機会の取り込みを図る。

Before：需要に対し、生産能力不足で機会損失が発生

二輪ドライブチェーン製造状況



ネック：焼き入れ工程
高収益の補修需要向けの製造が不足

After：拠点連携により不足する製造能力を補完

当社側拠点活用

生産能力 100 → 130

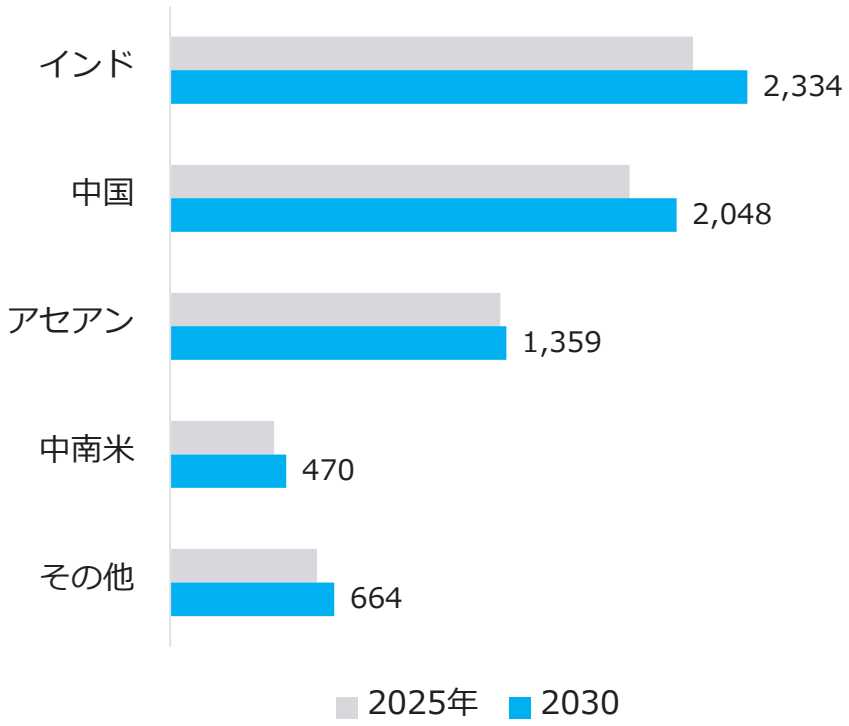
OEM 50 ＋ 補修向け 80を供給

今後：一時的な支援から恒常的な最適配置へ
能力・負荷の共通管理/工程移管/自動化/増強投資

7 モビリティ事業｜二輪市場の成長機会

インドを中心とする成長市場でOEM事業を拡大するとともに、補修市場向けを強化。
生産体制の最適化により収益性向上を図る。

自動二輪生産台数予測（万台）



エリア別重点戦略

インド

OEM事業の成長拠点
最大市場での事業拡大と現地生産強化

生産集約、輸出供給拠点

日本

高収益の補修市場向け中核拠点
高付加価値商品の開発、生産の強化

高付加価値化・収益力強化

タイ

グローバル供給拠点
補修市場向け供給体制を強化

生産効率・供給力向上

中国

中国市場の深耕
両社拠点の連携により販売、生産効率を向上

両社協業による市場攻略

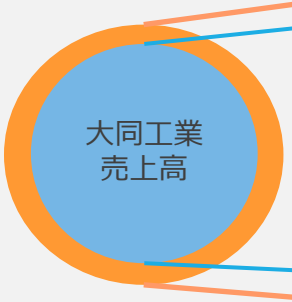
8 モビリティ事業｜二輪事業の事業領域拡大

今後の方針：チェーン単品販売からシステム提案へ。
顧客当たりの採用品拡大と売上成長を図る

Before：

チェーンなど部品単品での事業領域

二輪タイミング**チェーン**ビジネス
（日系メーカー）
市場規模 約70億円

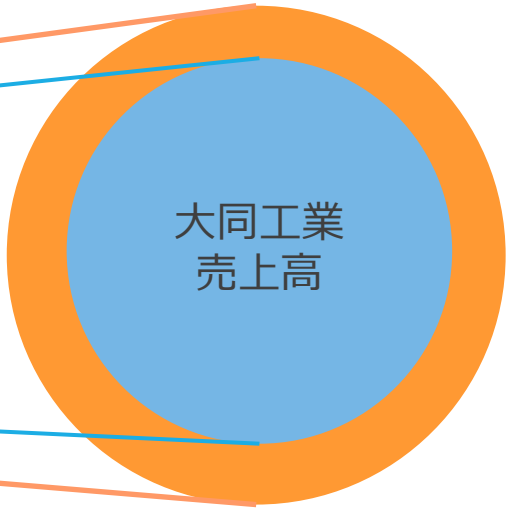


※市場規模は現時点での当社調べ

After：

システム提案による事業領域

二輪タイミング**システム**ビジネス
（日系メーカー）
市場規模 約280億円



当社のシステム開発力を活用し、単品販売からシステム提案へ
1車種当たりの採用品拡大を図る

9 モビリティ事業｜四輪事業の収益改善と事業拡大

大同工業の四輪事業は特定顧客への依存度が高く、事業規模も限定的。
両社で生産体制の最適化を進め、事業拡大と収益性向上を図る。

	当社　四輪ビジネス ※2026年3月期実績、大同工業除く		大同工業　四輪ビジネス
	売上高 約930億		売上高 約50億
	営業利益率 約10%		営業利益率 損失計上
	主要顧客 日系 米系 欧州系 etc.		主要顧客 1社中心
商品・案件	複数顧客・複数案件で負荷を平準化		特定顧客・特定案件への依存度が高く、数量変動の影響を受けやすい
生産規模	量産規模を確保し、設備を効率的に稼働		事業規模が小さく、設備稼働率・固定費負担に課題
原価管理	グローバル共通の生産・原価管理を展開		拠点単位での管理が中心、生産性・原価に改善余地

9 モビリティ事業｜四輪事業の収益改善と事業拡大

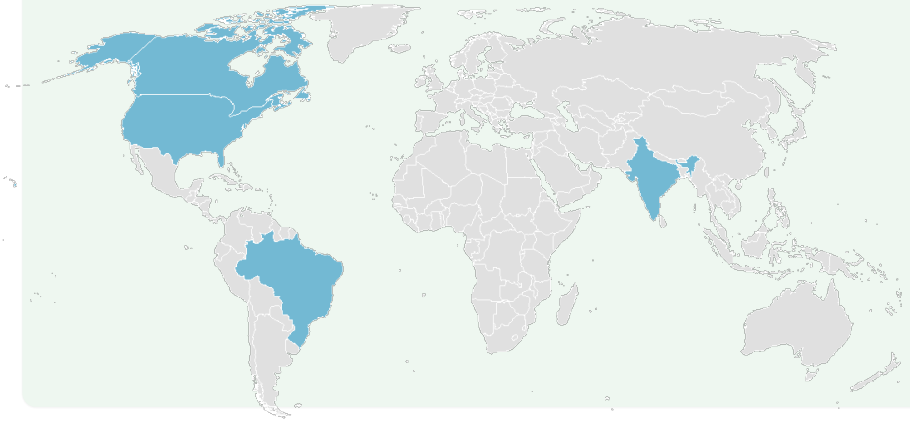
当社主導で大同工業の海外拠点を再編・活用し、グローバルでの事業拡大と収益性向上を図る

大同工業の拠点活用と再編

方針：

両社の生産拠点・機能を一体で見直し、最適な生産体制を構築。
大同工業が有する海外拠点を活用し、四輪事業のグローバル展開を加速する。

拠点活用 × 生産再編 × 最適地生産



海外生産体制の再編

インド
現地生産・現地調達を強化
輸出中心から、現地生産・現地調達へ

ブラジル
現地生産体制の構築
大同工業の既存拠点を活用し、
顧客の現地生産ニーズに対応

北米
両社拠点を再編・効率化
機能・設備・人員を効率化

成長市場への供給力強化 ×生産効率向上

10 モビリティ事業｜統合シナジーによる収益成長

インドをはじめとする新興国での売上拡大と、経営統合による生産性向上・
原価低減を通じて、モビリティ事業全体の収益力を強化

モビリティ事業 2025年度実績

売上高	974 億円
営業利益	100 億円
営業利益率	10.3 %

シナジー創出による貢献効果（2030年度）

二輪事業	✓ OEM・補修市場の振興
四輪事業	✓ 生新興国市場開拓・拡販
生産・供給体制	✓ 生産拠点の最適化 ✓ 拠点相互活用による稼働率向上
コスト競争力	✓ 生産性向上・原価低減

モビリティ事業 2030年度目標

売上高	1,700 億円
営業利益	200 億円
営業利益率	11.8 %

シナジー創出による貢献額（2025年度→2030年度）（大同工業モビリティ事業）

売上高	営業利益	営業利益率
+145億円	**+45億円**	**+7pt改善**

11 大同工業：パワートランスミッション事業の概要

産業用チェーンを幅広く展開し、特殊用途にも対応。
多様な産業設備を支える製品群を保有。

※2026年3月期実績（社内管理ベース）に基づく

動力伝動用チェーン
搬送用チェーン



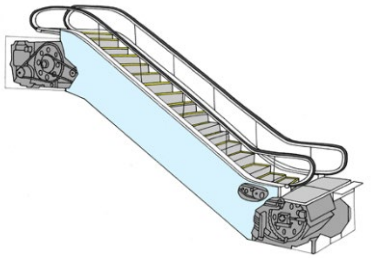
■ **立体駐車場用**



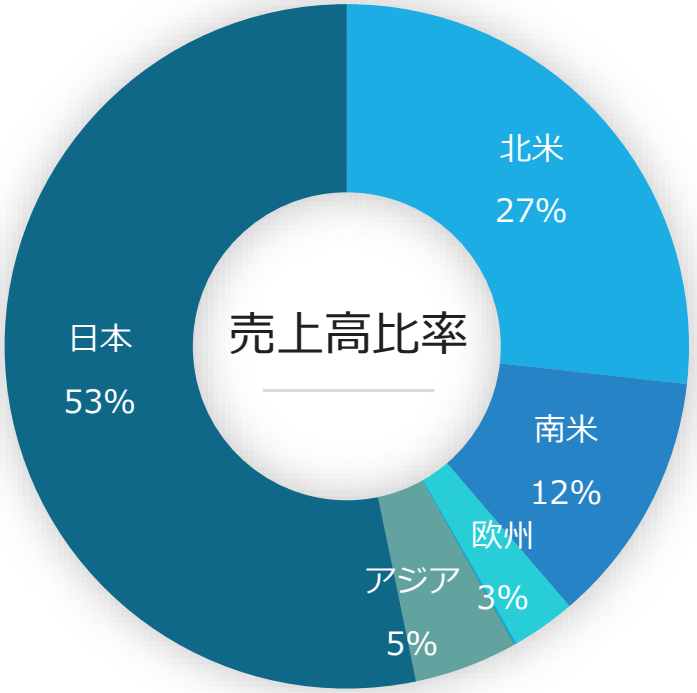


■ **エスカレーター用**





地域別



パワートランスミッション事業｜現状と課題

特色ある商品・技術を有する一方、価格競争の激化や生産・販売体制の
非効率性により、収益性に課題。

商品別の状況



動力伝動用チェーン

汎用分野で価格競争が激化
事業規模・生産効率に課題

収益性に課題



コンベヤチェーン

特殊用途などで
独自性のある製品群を有する

収益を確保

地域別の状況



北米・インド・中国

一定の収益基盤を確保

収益を確保



日本・南米・アジア・欧州

収益性に課題

両社の技術・生産基盤の融合による、事業規模の拡大と収益力の強化へ

13 パワートランスミッション事業｜構造課題と事業機会

両社の商品には約5割の重複がある一方、大同工業は活用可能な生産拠点と独自の技術・商品を保有。統合による事業基盤の最適化と市場競争力の向上を図る

商品



重複製品
約**5**割
（売上高ベース）

構造課題

✓ 重複製品による収益性の低下

事業機会

両社の技術を生かした
製品ラインアップの最適化

製造



活用可能拠点
3拠点
（日本・インド・ブラジル）

構造課題

✓ 活用可能な生産能力と、
生産拠点・機能の再編余地

事業機会

生産能力の有効活用と
生産効率の向上

市場



海外メーカーとの価格競争

構造課題

✓ 価格競争の激化による収益性の圧迫

事業機会

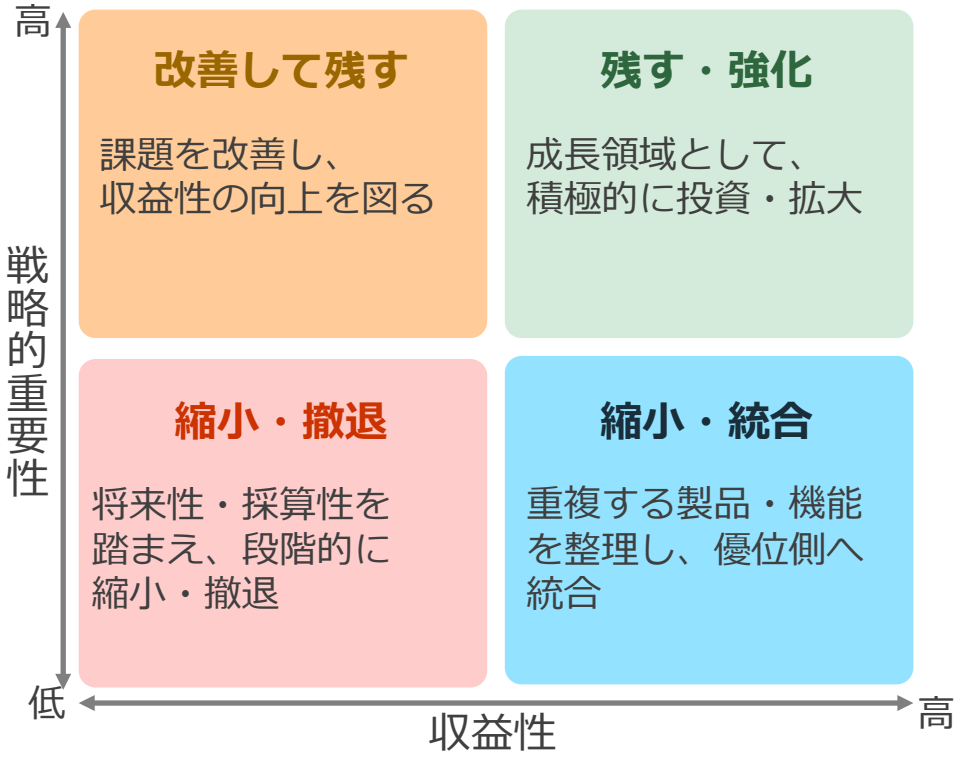
生産・営業・サービス体制の
強化による市場競争力の向上

3つの構造課題を解決し、成長シナジーの創出につなげる

パワートランスミッション事業｜整理・拡大方針

商品・拠点の収益性と成長性を精査し、統合効果を最大化する事業構造へ再編

商品・拠点の判断基準



整理方針

商品

✓ 重複する商品・仕様を整理統合
競争力の高い商品に集中

拠点

✓ 既存拠点を最大限活用し、
生産品目・機能の最適配置を推進

市場

✓ 重点市場・成長領域での価値提供を
高め、 競争優位性を強化

足もとの採算性だけでなく、成長性・戦略的重要性・統合効果を総合的に見極め、最適な事業構造を構築する

15 パワートランスミッション事業｜統合シナジーによる収益成長

重複商品の整理統合、生産体制の最適化、市場競争力の強化により収益構造を改善

パワートランスミッション事業 2025年度実績※

売上高 1,263 億円

営業利益 163 億円

営業利益率 12.9 %

※旧チェーン事業、MC事業の単純合算ベース

シナジー創出による貢献効果（2030年度）

商品
- ✓ 重複商品の整理統合
- ✓ 商品ポートフォリオの最適化

生産拠点
- ✓ 拠点の有効活用
- ✓ 生産品目・機能の最適配置

市場
- ✓ 製造・営業・サービス体制の強化
- ✓ 高付加価値化による競争力強化

パワートランスミッション事業 2030年度計画

売上高 1,600 億円

営業利益 230 億円

営業利益率 14.4 %

シナジー創出による貢献額
（2025年度→2030年度）
（大同工業パワートランスミッション事業）

売上高 **+35億円**

営業利益 **+20億円**

安定収益化へ

16 マテハン事業：大同工業のマテハン事業概要と統合方針

チェーン技術を基盤としたコンベヤ技術を提供。
粉粒体搬送では商品ラインアップの補完と営業力強化、自動車製造ラインでは
メンテナンス機能統合により収益基盤の強化を図る

粉粒体搬送 コンベヤシステム



事業の特徴

大同工業：大型設備が主

椿本バルクシステム：
比較的中小型設備、
汎用向けを得意とする

統合方針

- ✓ 商品ラインアップの拡充・補完
- ✓ 営業・販売体制の統合

自動車工場等 製造ライン向けコンベヤ



事業の特徴

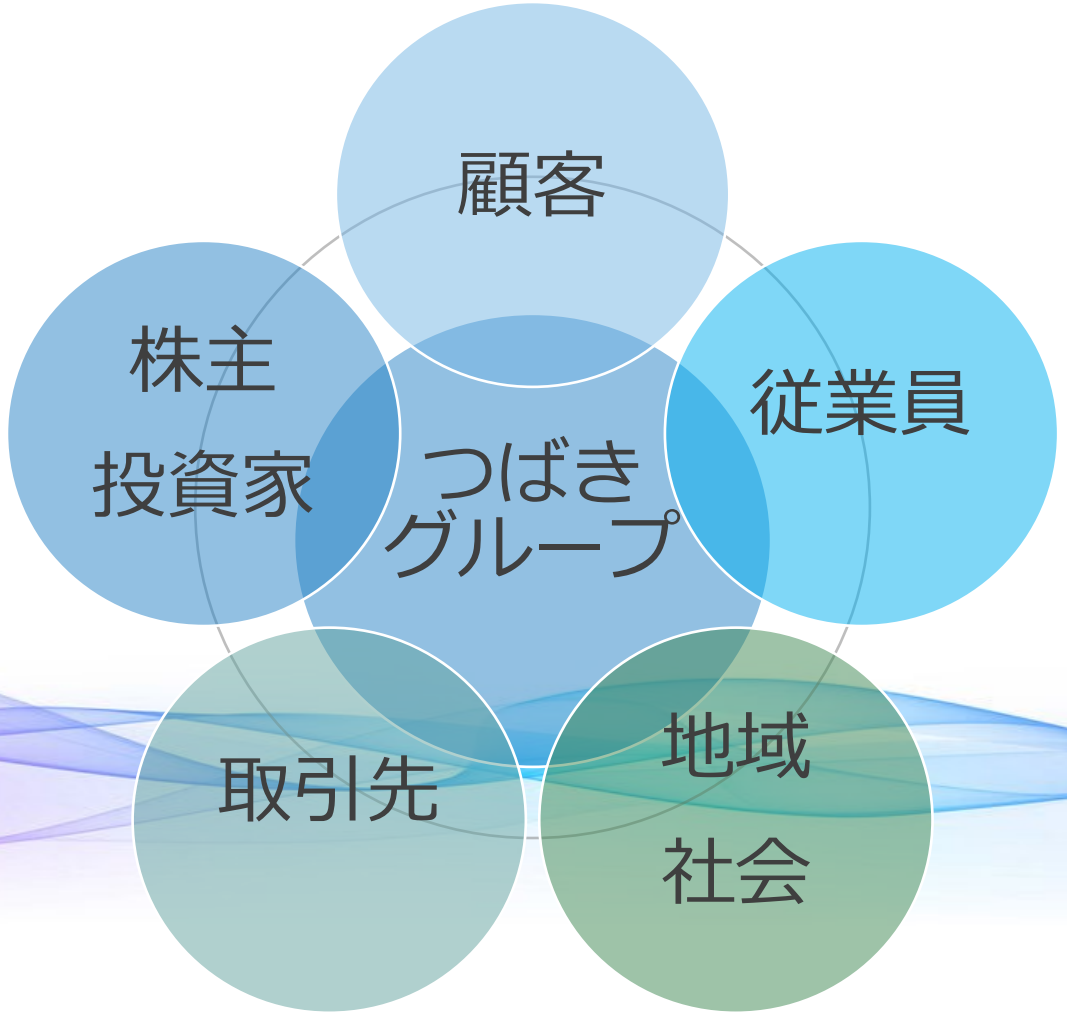
大同工業：過去納入設備の
メンテナンス中心

統合方針

- ✓ メンテナンス部隊・機能の統合
- ✓ メンテナンスサービス体制拡充

売上・利益拡大、安定収益化

商品・営業機能の補完・統合による成長と、メンテナンス事業の拡充による安定収益化



当社グループは
パートナーシップ構築宣言に基づき、取引先の皆さまや価値創造を図る事業者の皆様との連携、共栄共存を進めるとともに、
マルチステークホルダー方針に基づき、ステークホルダーとの価値協創や生産性向上に取り組みます。生み出された収益・成果については、マルチステークホルダーへの適切な分配を行ってまいります。

本資料に記載している事業計画および業績予想等に関する記述は、資料作成時点において当社が入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、各種要因により、これらの業績予想とは異なる結果になり得ることをご承知おきください。